



発行責任者

原田 尚之

## 【校長室より】 『GOTOグローバル』

校長 原田 尚之

五島高校に20数年ぶりに赴任し、最も衝撃的だったのは、生徒数が前赴任していた頃より半分程度になっていたことでした。少子高齢化問題は、頭の中で解ってはいましたが、目のあたりにして衝撃を覚えました。それに加え、2040年問題が追い打ちをかけるように話題となり、このままだと五島市も約76%の割合で消滅してしまうかもしれません。しかし、この問題に対しては、地元の皆様が様々な努力を重ねられ、対策がなされています。本校としても積極的に参加し応援していきたいと思えます。

地方創生や地域の活性化は、今や日本が直面する最大の課題の一つです。地域の活性化なくしては日本の発展は望めないとも言われています。地域の活性化は、究極のところ人づくりであり、郷土愛と強い意志を持ち、地域の発展を支える人材の育成が地域活性化の最大の課題です。そのためには、大人だけでなく、将来を担う子どもたちにも地域活性化問題のメッセージを送る必要があると思えます。高校時代は地域の子どもたちへ、様々なメッセージを直接送れる最後の期間と言っても過言ではありません。

各学校は、生徒の進路保障という目標に向かって色々な努力を重ねています。本校においても、総合的な学習の時間やLHRの時間を使って様々な進路指導を行っています。どの企業に就職するか、どの大学等に進学するかも大切ですが、進路指導の最終的な目標は

### 「自分の特性を生かし、いかに社会的貢献をするか」

を考える事だと思えます。しかし、高校時代は身近な地元の課題に対して

### 「自分の特性を生かし、いかに地域の活性化に貢献するか」

を考えてほしいと思えます。身近な事から取り組むことによって、より具体的に考える事ができ、様々な視点を養う事ができるからです。

将来は世界に羽ばたきグローバルな世界で活躍する人もいるでしょう、また、地元に戻りローカルな世界で活躍する人もいるでしょう。どのような立場で活躍するにしても、様々な立場や分野から、自然豊かで素晴らしい五島の活性化に貢献してもらいたいと思っています。できればGOTOグローバル（グローバルな視点を持ち、ローカルに活躍する）な世界で活躍してほしいと願っています。



## 【寮大掃除・避難訓練】（7月3日）

7月3日（金）考査最終日の午後、寮の大掃除と避難訓練を行いました。

寮の大掃除を15:00から1時間、生徒・教職員で行いました。通常の掃除区域だけでなく、食堂や玄関の床の拭き掃除を行ったり、粗大ゴミを出すなど、見違える程寮がきれいになりました。その後、16:10から、自衛消防訓練を行いました。避難訓練では模擬通報や消火器の使い方の講習、避難梯子の確認も行うことができました。その後、水消火器による模擬消火活動を行ったのですが、多くの生徒が自主的に参加していました。消防署職員の方から講話もしていただき、寮生のみなさんの防火に対する意識も一層高まったようです。



## 【五高祭テーマ発表】（6月23日）

今年度のテーマは、『360°』

自分自身を様々な角度から見つめ、新たな自分を発見し、前向きに未来へと歩いていく。そんな実行委員たちの想いが込められたテーマです。



3枚の中央スクリーンでの映像→ステージでのテーマ表現（ダンス）→中央スクリーンでのテーマ発表→ステージでの演劇+実行委員長の話り、という構成でテーマ発表を行いました。

五高祭の主役は全校生徒です。五高祭実行委員36名は、全校生徒のみなさんに未来に希望を抱いてもらえるような五高祭を企画・運営していきます。今年度の五高祭に、是非ご期待ください。

## 【吹奏楽コンクール壮行式】

（7月17日）

7月17日（金）、吹奏楽部の壮行式を行いました。今年は3年生9名、2年生18名、1年生14名の、総勢41名で、課題曲Ⅱ『春の道を歩こう』と自由曲『バレエ音楽青銅の騎士』を演奏しました。吹奏楽部は毎年7月末に行われる吹奏楽コンクールで金賞をとり、九州大会に出場することを目標としています。部員同士音楽に対する意見を出す中で衝突をしつつも、同じ目標に向かって切磋琢磨できる環境に感謝しています。本番は、現在のメンバーで演奏できる最後の機会となります。悔いが残らないように五島高校吹奏楽部のモットーである「心に響くサウンド」を目指したいと思います。



## 【体育祭テーマ発表】（7月7日）

7月7日（火）今年度の体育祭テーマ発表が行われました。本年度のテーマは「華羅奮流」（カラフル）～1人1人の個性を活かして～です。赤・青・黄、各団の個性を活かしながら、五島の大地で輝く五高生を表現しようと、体育祭実行委員会を中心に決定しました。

テーマ発表後、団の色決めを行い、下記の通りとなりました。9月6日（日）本番に向けて8月中旬以降準備を進めていきますので、多くの方のご参観よろしくお願いたします。

	赤 団	黄 団	青 団
3年	1・3・6組	2・4組	5・7組
2年	2・4組	5・7組	1・3・6組
1年	3・5組	1・6・7組	2・4組

## 【全国大会への抱負】



私たち百人一首かるた部にとって最も大きな2つの大会がいよいよ開催されます。7月18日からは滋賀県で開催される全国高等学校小倉百人一首大会に、7月28日からは同じく滋賀県で開催される全国高等学校総合文化祭に参加してきます。この1年間部員全員で練習に励んできた成果を発揮できるよう全力で戦ってきたいと思えます。五島高校生として、長崎県の代表として目標を達成できるよう頑張ります。

百人一首かるた 選手一同

## 【マリンスポーツ実習】（7月2日～3日）

7月8日（水）から10日（金）の日程で、玉之浦小浦海水浴場でのカヌー実習やさんさん富江キャンプ村での水泳実習、マリンスポーツ、飯ごう炊さん、普通救命講習（富江町公民館・五島市消防署の御協力）などを実施しました。どの実習も地域の方々のご協力と五島の自然のおかげで充実した実習を行うことができました。

今年は、1・2年生のスポーツコースの生徒22名が参加しました。生徒たちはそれぞれが個々の役割を果たし、1・2年ともに協力して活動している様子を目にする機会が多い素晴らしい実習でした。生徒たちは、快適とは言えない不便なテント生活という普段できない体験を通して、自然の雄大さ、仲間と協力して生活することの大切さ、さまざまな活動をやり遂げた時の達成感を味わうことのできた素晴らしい実習であったと確信しています。

## 【衛生看護科1年生施設実習】（7月9・10日）

7月9・10日の2日間、聖マリアの園とリハビリセンターふくえにおいて、衛生看護科1学年の施設実習を経験しました。

実習では、食事介助や排泄介助、清潔ケアを行わせていただきました。初めは、支持されたことに必死で周りをよく見ることができず、自ら行動することができませんでした。しかし、時間が経過すると共に、自ら積極的に話しかけることができました。利用者様からも、「頑張ってるね。」や、「気が利いて何でもできていた。」という温かい言葉と笑顔をいただき、とても嬉しかったです。今回の施設実習では、看護する大変さ、やりがいを知ることができました。この2日間で看護職の良さを知り、このような職に絶対就きたいと思いました。これからも、12月の施設実習に向けて校内実習も一つ一つ丁寧に実践でも有用するように努力していきたいです。（生徒の感想より）



## 【あこうセミナー】

（7月14日）

7月14日（火）に総合的な学習の時間の一環として、職業講演「あこうセミナー」が実施されました。

保健師、栄養士、市役所水産課、市役所税務課、海上保安、福祉、家畜衛生課、理学療法士、司法書士、看護師、保育士、警察官、新聞記者の13のブースに分かれ、それぞれ五島に住む職業人から2回の講話をいただきました。職業の魅力や難しさ、その職業に就くまでの道のりなど、詳しく説明していただき、生徒も熱心に耳を傾け、意欲的に質問をしていました。

生徒は目標とする職業に対する理解を深めることができ、このセミナーをきっかけとして自身の進路意識を高めることができたのではないかと思います。現在、2年進級時の文理選択が行われています。このセミナーで学んだことを、ぜひ反映させてもらいたいものです。



## 第1回校内競技大会結果（7月7日）

	優勝	2位
バレーボール男子	2年7組	1年3組
卓球男子	3年1組	2年5組
バレーボール女子	3年1組	2年7組
卓球女子	1年1組	2年1組

## 【九州大会を終えての感想】 美術部 2年 浦 きみか

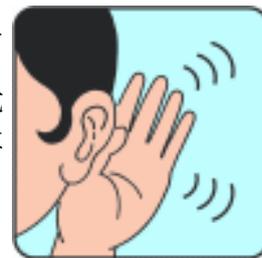
宮崎県で6月18日（木）から開催された九州大会の作品を生で見て、最初に感じたことは、それぞれの個性が強く出ている作品が多かったということです。合評会では、他県の生徒の絵に対する熱意やこだわりなどを聞いて、絵に対する強い気持ちを感じ、とても参考になりました。生徒交流会でのチョークアート制作では、他県の人と班の中で協力し合って、巨大な作品が完成したことにとっても感動しました。九州大会では、九州8県のいろいろな人と交流できたのが一番よい経験になったと思います。



## 「聴く力」

1学年主任 谷口 享

「聞く」と「聴く」の2つの漢字の意味を考えてみたい。「聞く」というのは漢字が示すとおり「耳」だけで聞くということである。一方「聴く」という漢字には「耳」「目」「心」が含まれている。「聞き流す」と言うが、「聴き流す」とは言わない。私たちは普段の生活の中で多くの事を聞き流しているのではなからうか。特に、自分に興味・関心がないことや、自分にとって耳が痛い話は聞き流したり、聞いているふりをしたり、ひどい時には耳にふたをして全く聞かないことさえもある。日常生活の中で、人の話を聴く機会はたくさんある。もしかすると話す機会よりも多いかもかもしれない。学生ならば授業を「聴く」、ホームルームで担任の話を「聴く」、集会や講演会で講話を「聴く」、部活動の顧問の指示を「聴く」、友達の話や「聴く」等々…。これまで人の話を聞き流していなかったか、今一度、自身に問い直して欲しい。たとえば、「明日の授業には〇〇を持って来なさい。」と言われたとする。しかし、翌日〇〇を持ってこない、ということがなかったか。そしてこれは、とても危険なことであるということ再認識したい。今、私たちにとって大切なことは「聴く力」をつけることである。それは、日常の中で訓練できるものであり、それを継続することにより身につけていくものである。人の話は「耳」「目」「心」で、しっかり聴きたいものである。



## 「伸びるメカニズム」

2学年主任 洲上 透

誰しも「上達したい」「力をつけたい」と思っていることがあるでしょう。でもどうやれば上達するのか？ 実は上達するにはそれなりの仕組みがあるようですので紹介します。

例えば野球。監督やコーチが選手にバントの正しいやり方を教えます。選手への説明は10分ぐらいでしょうか。その説明を聞いて選手がなるほどと納得します。しかし、説明を聞いただけでは当然バントはできません。そこからその選手はチームメイトにボールを投げてもらい、何球も何球も練習します。最初は上手いかないでしょうが、なぜ上手いかないかのいろいろの思考錯誤しながら何十球、何百球と練習を積み重ねていくうちに自在にボールを転がせるようになります。

力が伸びるかどうかは、一人になった時の時間をどう過ごすかで決まります。勉強にも同じことが言えます。授業を受けた後に復習を重ねる回数が多いほど力がつくのです。夏休み中は家で過ごす時間が増えると思います。「伸びるメカニズム」を理解してぜひ実践してみてください。ポイントは何度も何度も繰り返すことですのでお忘れなく。



### 【九州大会を終えての感想】

剣道部 3年 與田 瑞希

私は「まだ仲間や先生と剣道がしたい」と思ったとき、高総体で九州大会の切符を掴み取ることができました。あれから一ヶ月があつという間に過ぎ、熊本県菊池で試合に挑んできました。今まで指導して下さった濱口先生、いつも応援してくれた保護者や仲間に対し、感謝の気持ちを結果に残したいと思いました。しかし、結果は一回戦敗退に終わり、悔しさと申し訳なさで一杯でした。残す試合は玉竜旗。その後、夏の学習合宿に参加します。

### 【九州大会を終えての感想】

柔道部 3年 戸野本 幸輝

私は、6月21日(日)に宮崎県で開催された九州大会柔道競技の男子個人100kg超級に出場いたしました。対戦相手は、昨年九州新人大会で戦い負けた佐賀工業高校の橋口孝志朗選手でした。試合は、リベンジの戦いで積極的に技を繰り出しましたが、試合終了間際に受けた指導で、1回戦敗退という結果に終わりました。最後に、後輩の皆さんには、五島高校の攻撃柔道で上位大会で活躍してほしいと思っています。